

広報

# おばま 3

2013

《表紙》

小浜線電化10周年を記念して、JR小浜駅に嶺南6市町のゆるキャラが集合！P8～9に各ゆるキャラがそれぞれの駅のおすすめスポットなどを紹介しています。

また、嶺南6市町の広報紙でも連携した記事を掲載しています。ぜひご覧ください。

(1月24日)

わたしたちをつなぐ小浜線！  
～祝！電化10周年 嶺南の旅へ出発進行！～



【特集】今、ボクらにできること

# 今、ボクらにできること

## ―魅力を生かしてまちを元気に―

2月9日に中央公民館で、市長と若者が語り合う「市長と語る夢トーク〜若者編〜」を開催しました。市内の20代〜30代の若者13人が参加し、若者たちからは、日ごろ感じていることや、まちづくりに対する思いなど、たくさん意見が出ました。  
今月号はその内容を掲載します。皆さんもこの記事を読んで、小浜市の活性化について、いっしょに考えてみましょう。



### 人材確保が急務。若い人材を呼び起こせ

**木村** お年寄りから「若い人に元気がない」とよく言われます。非常に悔しいです。元気がないのではなく、元気を出す場がないんです。「加斗ク LOVE」を立ち上げ、現在、鯉川シーサイドパークを整備していますが、参加した若い人は楽しんでいません。

**武部** 地区対抗の運動会、小浜地区は毎年同じ人が出ています。少しずつ若い人に代を移していかなければならないと感じています。

**木村** 青年団と聞くとめんどくさい

しそくに儲けないと駄目です。土遊の延長といった感覚ですね。また、農業は儲からないというイメージが強いですが、工夫次第で儲かります。ただ、地元で縛られると駄目です。地元だと単価が下がるし、経費もかさみます。地産地消は大切なんです。地産外消も考えていかなければなりません。

**市長** 山本さんが儲かる、楽しいと言ってくれると心強いですね。周りの人が感化されます。ネット販売はしていますか。

**山本** ネット販売はしていません。今は、仲買人を仲介させて、全量引き取ってもらっています。わたしは、親から引き継いで農業をしています。一から農業を始める人にとって、資金面でのハードルが高いです。だから、わたしたちが大きくなって、受け皿作りをしたいんです。

**市長** 法人化して人を雇い入れてくれれば、その人は農業でやっていけるといって自信になります。

### 既存の地域資源を生かすことが大切

**竹田** 都会の友人の話を聞いていると、小浜には仕事がないというイメージがあるみたいです。それから、

という印象を持ちがちです。その辺を変えたかったです。だから名称を「加斗ク LOVE」にしました。

**柴田** わたしは青年会長と体育協会に所属していますが、若者だけで完結しようと思うと、無理があるんです。定年退職した人や中高年の人たちを巻き込みながら、みんなで協力して進めていくことが大切です。

**安倍** 団体に参加しなければと思うと、余計に参加しづらくなります。楽しいから行くという発想に変えていかなければなりません。

**中島** 最近はインフラが整備され、行動範囲は広がっていますが、コミュニティは縮小していると思います。反面、ネットなどの普及で、自分の趣味に合う人とはすぐにつながるようになります。

**市長** 同じ趣味の人が集まって団体に縛られずに人脈を広げられるのは良いことです。

**小堂** 根本的に人材が不足しています。20代前半はほとんど市外に出ています。何か工夫をして若い人を呼び起こす努力をしなければなりません。

**農業は工夫次第で儲かる**

**山本** わたしは農業をしています。が、農業は儲かる人と儲からない人の差が出やすいですね。また、最近の趣味の延長でしている人もたくさんいます。若者の農業離れが進んでいるのは、儲からないのに農業は大変そうというイメージが先行しているからだだと思います。今の農家は楽



きむら たけし  
木村 武史さん  
(32歳・上加斗)  
加斗ク LOVE 代表



たけべ としや  
武部 敏哉さん  
(33歳・鹿島)  
体育協会役員



しばた あつし  
柴田 淳史さん  
(26歳・生守)  
今富青年会



あべ のぶひろ  
安倍 信博さん  
(26歳・福谷)  
内外海青年団長



なかじま あこ  
中島 阿児さん  
(29歳・門前)  
まちづくり市民幹事会



こどう としひさ  
小堂 壽久さん  
(32歳・下田)  
JC 会員



やまもと さとる  
山本 聡さん  
(32歳・生守)  
まちづくり市民幹事会



**濱岸** 皆さん公民館は利用していませんか。最近、公民館でイベントを企画しても参加してくれる人が少なくなっています。講師を探すのも、一苦労です。

**木村** 公民館を十分利用できていないのが現状です。ただ、しっかりと講座はできないかもしれませんが、講師を探すのはそんなに難しいことではないと思います。

**中島** 本気で探せば、趣味や知識を持った講師は見つかります。そういった人を取り込んでいくことが大切です。

**市長** お店の人来実際に来てもらって説明を受けたり、実際に体験をし

## 公民館の活用を

**市長** 「鶏が先か、卵が先か」という言葉もありますが、人が来るからきれいにする、きれいにするから人が来ます。観光スポットをきれいに整備し、デートスポットにするなどの取り組みが必要です。確かに良い素材はあるが、生かしてきいていないという話をよく聞きます。

**木村** 新しいものは期待していません。あくまでも既存の地域資源を生

若い人が遊べる場所が必要ですね。小浜は景色もきれいだし、食もおいしいです。小浜公園は夕日がきれいです。夜になると真っ暗で、女の子一人では行きづらいです。また、春にはお花見を楽しみ、秋には紅葉する木を植えれば、観光地になると思います。先日、エンゼルラインに行きましたが、駐車場が少なく、整備が不十分だと感じました。

**市長** 遊ぶ場所を、市が経営するのは難しいかもしれません。都会と同じものを田舎に求めることはたやすいことではありません。

**竹田** 今は、きれいな町並みや景色があるのに十分生かせていません。商店街や小浜公園もあまり良い印象を持っていません。映画館やゲームセンターなどを建てるのではなく、既存の資源を生かさなければなりません。

かすことが大切です。上仲 イベントをするなど若者が集まれる機会を増やすのも一つの方法です。

**市長** 3月に「街飲み祭り」が開催されますね。

**山本** 女性の意見で、「街コン」ではなく、「街飲み祭り」という名称になりました。実行委員会のメンバーは半分が女性です。女性メンバー中心で企画しました。出会いもそうですが、わたしたち実行委員には、仲間を集めて知り合いを増やしていこうという思いがあります。

## スポーツの面から 小浜市を活気づけたい—中島



イメージとしては“**ダッシュ村**”  
みたいなものかな—中島



**中島** 上根来は限界集落。まず、アクセスが不便です。居住人口ではなく、交流人口を増やすことが大切です。グリーンツーリズムやエコツーリズムなど体験型観光を作るのが将来的な展望です。また、登山道を整備したり、古民家をゲストハウスのに使うことも考えています。今は実験段階です。滋賀県高島市と小浜市の県境に年間約4万人の観光客が来ますが、上根来に何か造れば小浜の方に下りてくるルートができると思います。

**竹中** 関西では、山の中でシイタケ狩りをし、施設内で、バーベキューができるスポットがあります。また、

**上根来の活性化を目指して**

**市長** 「ふるさとまつり」へ行くと、こういう活動もしていたんだと改めて気づくことがあります。

てもらったりするのも良いですね。

**山本** 公民館主催のイベントにはなかなか人が集まらないのが現状だと思います。まずは強制的に来てもらう必要があります。来ておもしろかったら次も行きますし。最初は人を集めるのに苦労すると思います。参加すれば、新たな発見も生まれてくると思います。

## 小浜のきれいな町並みや景色を 十分生かしきれしていない—竹田



仲間を集めて知り合いを増やす、  
それが**街飲み祭り**の目的—山本



**中島** わたしが勤めている高校は卒業後就職する人が多く、地元に残る人が多いです。今の悩みは、生徒の部活動への入部率が低く、あまり元気がありません。中学・高校のうち、何か一つ熱中することがあると、その後の人生にプラスになります。若狭町やおおい町ではサッカーやバドミントン教室が開かれ、スポーツ振興が盛んです。小浜でもスポーツ教室が開かれているのは知っていますが、もっと幅広く振興できたらと思います。スポーツの面から小浜市を活気づけられると良いですね。

**スポーツで地域を活性化**



かわしま ひであき  
河嶋 秀明さん  
(36歳・水取1丁目)  
JC 会員



たけなか ゆういち  
竹中 裕一さん  
(25歳・加茂)  
地区青年部



はまぎし ひろし  
濱岸 弘さん  
(26歳・犬熊)  
内外海青年団副団長



なかじま あやか  
中島 綾加さん  
(25歳・南川町)  
県立高校講師



かみなか  
上仲まりなさん  
(20歳・水取4丁目)  
成人式実行委員



たけだ よしの  
竹田 美乃さん  
(26歳・西長町)  
街飲み祭り実行委員



「街コン」とは？

街の活性化と男女の出会いの場を創出することを目的としたイベント。参加者は、商店街など広い範囲の複数店舗を回り、交流を深める。

街飲み祭りの応募は2月末で締め切りますが、応募状況次第で追加募集も行います。詳しくは小浜商工会議所 ☎ 52・1040

**街飲み祭りはじめました！**

近年、日本各地で開催されている「街コン」。県内でも、昨年は福井市や敦賀市などで開催。「小浜でもやりたい」「とにかく動き出そう」と、声を上げた市民有志で街飲み祭り実行委員会が結成されたのは、今年1月のこと。中心となるのは20代、30代の若者たちです。アイデアを出し合い、時に笑い、苦悩しながら、3月10日④の開催を目指して、現在奮闘中です。

実行委員長は、開催場所の駅通り商店街の理事長・岸野光恭さん（51歳・清滝）。「若者のアイデアに気づかされるのが多いです。今後も地域の中心になってほしいです」と、メンバーの若い力に期待を寄せます。実行委員会は企画とPR担当に分かれて、SNSなどインターネットもフル活用することで積極的に情報発信をしています。今後も若者による活発なまちづくりが期待されます。



毎週のように会議を開催



辻井 早織さん (23歳・府中)

街飲み祭り公式HPはこちら  
<http://www.machinomi.com>

**若者はやっぱり少ない**

岡本 自分が学生のころと比べて明らかに高校生が少なく、人も歩いていないと思います。

辻井 わたしの同級生も、ほとんど進学先で就職して、小浜に戻らない人が多いです。

**イベントへの思い**

岡本 食べ物がとてもおいしいまちなので、その魅力を多くの人に伝えたいです。

辻井 コンパという身構える人も多いので「街飲み祭り」にしました。みんなが気軽に集まれる機会にしたいです。

Interview 実行委員に  
聞きました



岡本 剛司さん (32歳・小浜)

**実行委員会に参加した理由**

岡本 小浜で街コンをしたいと思って、岸野実行委員長に相談したら、いっしょにやろうという話になりました。

辻井 わたしは、商工会議所の人がPRを手伝ってくれと言われて、いつの間にか実行委員会にも名前がありました(笑)。

**どんなまちになってほしい**

岡本 遊びに来たい、住みやすい、都会に出た人も戻りたい。そんなまちがいいです。

辻井 変に都会になっても小浜の良いところがなくなりそう。田舎だから小浜はいいかなと思っていきます。



とにかく行動することが大切。  
壁にぶち当たったら  
相談してほしいー市長

宮川地区には本保から阿納までオフロードバイクで通る人気のコースがあります。山頂は公園で、わたしもよくバーベキューをするんです。上根来やエンゼルラインでもそんな体験ができたら良いと思います。

**市長** バーベキューができる施設を造れば人が集まるかもしれませんね。中罵 バーベキューだけでは不十分だと思います。いろんなプログラムが必要ですね。トレッキングをしたり、また、上根来は明かりがなく、星がきれいなので、星空観察もできます。

**山本** 昔の畜産団地でジャズを絡めたイベントをしてみたいですね。カブトムシを養殖して、子どもたちを集め、夜の探検なども検討しています。アイデアはたくさんあります。

**中罵** 課題は多いですが、いかに楽しくするかです。イメージ的には「ダッシュ村」みたいな感じでしょか。

**山本** 婚活の一環として、上根来で出会いの場を提供し、交流するとう案もあります。名付けて「天空の花嫁」です。携帯電話の電波が届かないので、携帯電話を気にすることなく、その場にいる人とのコミュニケーションに集中できます。

**市長** 小浜は海と山の距離が近いので、小浜には両方体験でき

るという強みがあります。

**一日体験プランを考案**

**柴田** わたしは、よく川崎から小浜公園の方へ向かってジョギングをします。満月の夜、小浜公園の方から海を見ると、水面が月の光に照らされて、光の道ができるんです。とてもロマンチックです。わたしはそこを「ムーンロード」と勝手に名付けました(笑)。

**河嶋** 今おもしろいプランを思いつきました。まず、女性をターゲットにします。テーマは「癒し」と「美」。小浜公園を出発して、三丁町を散策します。塗箸や三味線などを体験できます。続いて寺巡り。パワースポットがあつて、マイナスイオンを浴びます。そして、明通寺や神宮寺へ行き、上根来を巡ります。夜は星空を眺めながら癒しを得ます。海、山、町並みをすべて満喫できます。そこに食も入れます。そんな一日体験プランがあつたら良いと思います。

**行動することが大切**

**山本** 市長はわたしたちに何を求めていますか。

**市長** とにかく行動することが大切

です。既に精力的に動いている人もいますが、それぞれが考えていることを実践していかねければなりません。そして、壁にぶち当たったときは、遠慮なく相談してほしいと思います。

**山本** わたしたちがしている活動を世間の人たちに知ってほしいですね。

**木村** 小浜市全体を取り仕切る青年団みたいな組織があると良いのですが。わたしは地元の加斗は大好きですが、加斗だけPRしても市全体としては不十分ですから。

**市長** 確かに広報をしっかりとしないとダメですね。小浜はPRが下手だとよく言われます。どういう風に発信していくかが重要です。可能なことはできる限り手助けをしたいと思っています。

皆さん、いかがでしたでしょうか。取材をしていて、「若者の夢は無敵だ」と感じました。まだまだ乗り越えなければならぬ壁はたくさんありますが、皆さんの意見にもあつたように、既存の地域資源を生かせば、「小浜の未来は明るいな」と感じました。